

巻頭言

*

毎日が旬



栗原誠一

まず初めに、この4月に開催された第30回日臨皮大会において、企画の段階からボトムアップ方式で会を組み立てた実行委員の皆様への敬意を表し、参加して一緒に会を盛り立ててくださった神皮会員の皆様に御礼を申し上げます。およそ2年間の喜怒哀楽の記録はいずれ神皮で紹介されるとのことですので今から楽しみです。

最近では80歳を過ぎた患者さんからシミやしわなど整容的な診察を頼まれることが増えたと思いませんか。Senile Pigmentflecke や Seborrheic Keratosis、Acrochordonなどを指して「年寄りっぽいでしょ。嫌なのよ」と言われると、「病気ではないから」などと邪険な返答はできません。また、高齢者施設に往診すると、化粧をしたとたんに背筋が伸びて若返る女性に出会うこともあります。白内障手術を受けて見えるようになったからの解説もありますが、化粧品会社やマスコミにとどまらず、行政までもが高齢者の理美容意識の高まりを認識し始めたようです。シミが薄くなりイボがとれると、表情までもが変わってきます。自分に自信をとりもどし、これからの生活を豊かな気持ちで過ごせるようになるならば、高齢者医療の本懐でもあるのではないのでしょうか。

閑話休題。およそ食材には旬があって、グルメを謳う寿司屋などはその時期をはずれたネタは仕入れないし、通の間では話題にもものぼらないようです。

この季節感とは異なりますが、人にも「旬」があると、10年ほど前に教わりました。教えてくれた人は全身に元気が満ちあふれ、まさに旬と表現するに相応しく見えました。自分にはいつ来るのだろうか、なれるのかしらと期待しながら過ごしてきましたが、なかなか至りません。ところが第30回日臨皮大会で素晴らしい仲間たちとの共同作業のなかで、人の旬が分かったような気がしました。企画を立てて持ち場を分担し、どうやって発表しよう、どうすれば楽しいセッションになるのだろうかなどと話し合う様子は、誰もが輝いて見えました。目標に向かって真剣に打ち込んでいるすがたは活き活きとして、まさに「旬」を感じとることができたのです。

そうなんです、人の場合は季節や期限はありません。自信のありなしは問題ではなく、目的意識を持って精一杯つとめていれば、「旬」にいることができるにちがいません。「人生は一場の芝居だと言うが、芝居と違う点が大きくある。芝居の役者の場合は、舞台は他人が作ってくれる。なまの人生は、自分で、自分のがらに適う舞台をこつこつ作って、その上で芝居をするのだ。他人が舞台を作ってくれやせぬ」。司馬遼太郎の『竜馬がゆく』の一節です。人生は己が主役で、その旬は年齢では量れません。毎日が旬であり続けるように、自分を意識しながら日々の生活を楽しみたいものです。